

ルワンダ月報（２０２２年７月）

※以下は、明示的に記載されたものを除き、ルワンダ通信局（Rwanda News Agency）の記事のとりまとめ。

1. 内政・外政

- 2日、ビルタ外相がブルンジの独立60周年記念式典に参加、カガメ大統領の親書をンダイシミエ・ブルンジ大統領に手交。
- 4日、カガメ大統領が独立記念日にスピーチ。独立から60年、解放から28年経ち、国内外が認める国家再建を成し遂げたと述べた。また、コンゴ（民）情勢については、長期的な観点から軍事的解決ではなく政治的解決が必要、武装勢力M23の戦闘員はキニヤルワンダ語を話すがコンゴ人であり、コンゴ（民）自身が問題を解決すると過去に約束している等と発言。
- 5日、解放記念日（7月4日）にカラングワ（Colonel John Karangwa）駐中国ルワンダ武官がオンライン会議に参加。在中ルワンダ人の若者に対するメッセージとして、虐殺を述懐しつつ、ルワンダ愛国戦線（RPA）に倣い不正義に立ち向かうよう呼びかけ。
(The New Times)
- 7日、6日に開催されたコンゴ（民）及びアンゴラとの三者首脳会談で、ルワンダとコンゴ（民）が関係正常化に向けた対話・協議を行うための環境作りを含むロードマップに合意。本会合はロウレンソ・アンゴラ大統領の発意で開催され、カガメ大統領はチケセディ大統領とともに参加した。
- 8日、コンゴ（民）から103人のルワンダ人が自主帰還。1994年以降、350万人のルワンダ人難民が帰還しており、過去5年間は主にコンゴ（民）から1万5,643人が帰還している。
- 11日、ルワンダの警察長官がソマリアのマハメド（Maj. Gen. Abdi Hassan Mahamed）と面談し、警察分野における協力強化について協議。
- 15日、ムラシラ防衛大臣が、ルワンダ訪問中のワマルワ（Eugene L Wamalwa）ケニア防衛大臣と面談。ルワンダ軍と国際コンピュータードライビングライセンス（ICDL）との連携が、軍大学におけるICT教育や技術強化に寄与している点や、両国の軍の既存の協力関係強化等について協議。
- 18日、国連自然保護連合（IUCN）が主催するアフリカ保護地域会議（APAC）がキガリで開催。ンギレンヘ首相が開会挨拶を行った。
- 21日、ンギレンヘ首相がタンザニア・アルーシャで開催された第22回東アフリカ共同体（EAC）首脳会議に参加。同会議では、EACの地域機構軍のコンゴ（民）への派遣の是非等について協議される予定。
- 23日、ルワンダ卓球協会が中国大使館の支援を得て主催する中国大使杯が23、24日に開催。ルワンダ、ブルンジ、ウガンダ、タンザニアの4カ国から約200人が参加登録。

- 23日、ルワンダが2025年に第6回アグロフォレストリー世界会議を主催予定。研究者、学者、開発機関、官民の関係者ら1500人が参加予定。
- 23日、カガメ大統領が、APAC参加のためルワンダ訪問中のイスフ前ニジェール大統領と面談。
- 26日、中国で英語教師をしながら法学修士を取得中のルワンダ人、ナディーン・インガビレ (Nadine Ingabire) が中国で歌手デビュー。(The New Times)
- 30日、ブリンケン米国務長官が8月10－12日にルワンダ訪問予定。コンゴ（民）情勢沈静化に向けたルワンダの役割についてのほか、民主主義、人権、ルセサバギナ氏の拘束等について協議予定。

2. 開発協力

- 18日、オーストリア銀行が、キガリ特別経済地区における産業技術教育・職業訓練（TVET）センター設立のため76億フラン（約730万米ドル）の支援に合意。同センターは、産学連携のモデルとなる研修プログラムの作成を行う。
- 22日、保健省が米ファイザー製薬との連携事業を開始。同事業は世界経済フォーラムでルワンダ政府と同社が合意したもので、ルワンダは同社が特許を持つ医薬品及びワクチンの提供を非営利で受けることが可能になる。

以上